

新東映

版 コ ス ネ シ

No. 597

40.6.24

特集

交通戦争 その二

“交通未亡人”

警視庁の交通事故掲示板。

それは交通戦争の墓場である。

そこに刺れた一本の針は計り知れない悲劇の波紋を押しひろげていく。

何の理由もなく、ある日突然、一家の支柱が死に、その不幸の全部が残された妻の上にかかってくる。

粕谷さんは外出からの帰途、妻子の眼前でヨッパライ運転に殺された。逮捕された夫の代りに告別式に臨んだ加害者の妻は悔みの言葉一つ言えないでいる。

被害者と加害者。その立場こそ違え、夫々の妻達は同じ暗闇のなかに突き落されてしまった。そして加害者の父親は息子の罪の償いに病身をおして急ぎ上京してきた。

被害者の妻は補償金について交通相談所を訪れた。四十二歳の働き盛りだった夫の場合、その額は七百万円になる。しかし加害者の勤め先は零細な土建業なのだ。

加害者は二年の懲役刑。残った妻は病気の子を抱えた上に身重である。こうして会社の幹部が示談で粕谷さんをたずねてきた。だが、未亡人の求める額と加害者の支払能力の差は余りにも大きすぎる。結局、支払能力に見合った百万円を呑むしかないだろう。加害者の父親も帰郷をあきらめ、その補償金と息子の妻子を養うのに病身にムチ打っている。

夫がバイクに殺された伊藤さんの場合決まった補償額は僅か五十万円。しかも相手が貧しい家の少年だったため支払は13年月賦だという。

こうして、生きて行くための未亡人たちの懸命な闘いが始まる。その表情はけわしい。だが事故は性こりもなく続発する人命は金にかえることはおろか、一生かかっても償い切れない。被害者が死ねば加害者も一生を棒にふる。巨額の補償金が生活そのものを破壊してしまうからだ。

618

制作・配給

東 京 新 映 画
東 京 中 日 新 聞
東 京 中 日 新 聞